

V.大阪湾水産流通プロジェクト

アジェンダ

1. 現状分析
2. 未来構想
3. 構想イメージ図

アジェンダ

1. 現状分析
2. 未来構想
3. 構想イメージ図

現状分析 ～大阪湾水産流通の現状～

現状の概要

水揚げされる魚種や量が不安定で保存性が低いといった水産物の特性から、漁港に隣接して水産物の集荷・出荷、生産・加工・流通の中心的な役割を担う産地卸売市場の役割は重要ではあるものの、多段階流通に伴うコスト増や鮮度劣化等の問題があり、規模の大きな漁業者や力のある小売業者などでは、市場を経由しない取引が増える傾向にあります。

また、水産物の産地卸売市場は小規模なものが多く、市場当たりの買受人数は減少傾向にあり、かつ、高齢化も進んでいる状況です。トラックドライバーの人手不足、手荷役作業が多い、小ロットで多頻度の輸送といった事情から、取扱いを敬遠される事例も増えています。

水産物の輸送には、水揚港・魚市場が分散し、鮮度維持が極めて重視されるという特性から、大阪湾全体での物流改善に取り組む必要があります。

アジェンダ

1. 現状分析
2. 未来構想
3. 構想イメージ図

未来構想～大阪湾全体を網羅する物流システムを構築～

水産に特化した大阪湾全体を網羅する物流システムを構築し、販路拡大、物流コストの削減、鮮度管理規格の統一を目指します。

泉佐野漁港や岸和田漁港を中心的な物流拠点であるハブ拠点とし、市場のWEB統合（デジタル市場）での落札に対して迅速な出荷を可能にします。また一般消費者の小口配送におけるUber等の個人配送も、この拠点整備により実現可能となります。

24漁協からの少額出資、または売り上げの数パーセントを活用することで、これまでの物流にかかるコストを大幅に削減し、鮮度管理規格の統一も容易となり、大阪湾産の魚のブランド力向上と信頼性の担保、他地域との差別化にも貢献します。

最終的には、コスト削減、雇用促進、魚の新鮮さを保ちながら需要に応じた迅速な配送が可能になることを目指します。

未来構想～具体的な施策～

(1) 市場のWEB統合に向けた拠点整備

- ・24漁協のハブ拠点を立ち上げ、物流の集約化によって効率化を図る
- ・需要変動の即時把握と迅速かつ柔軟な対応
- ・未利用魚／少量漁獲魚の集約による活用と安定供給

(2) 物流拠点の整備と活用

- ・24漁協の共同輸配送の推進
- ・帰り便活用による積載率向上
- ・一般消費者向けの小口ニーズの効率的な集荷・配送手段の確立

未来構想～具体的な施策～

(3) 鮮度管理の平準化

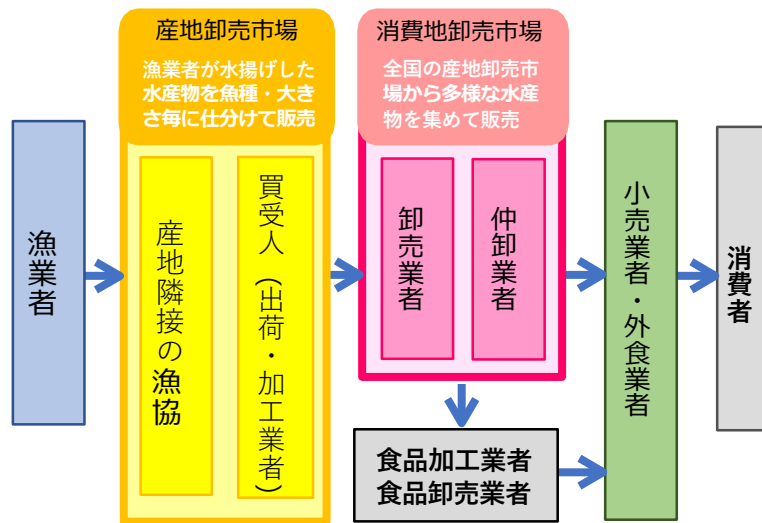
- ・位置や温度の常時把握と長期貯蔵技術の開発
- ・水漏れや臭気の発生を防ぐ梱包容器や品目混載を可能とする輸送方法の開発
- ・輸送資材や鮮度管理規格の統一による品質と信頼の向上

アジェンダ

1. 現状分析
2. 未来構想
3. 構想イメージ図

構想イメージ図

現状の主な流通経路



産地隣接の漁協から、近隣の消費者までの狭い範囲

未来予想での流通経路

